

福山市老人大学 第49期 入学式 式辞

春爛漫の本日、枝廣福山市長のご出席・早川市議会議長・ただ（多田）市老連会長・池口元老大学長・地元霞学区、枝廣連合町内会長・うらかみ（浦上）公民館長を始めとするご来賓・講師の先生方のご臨席を賜り、大勢の老大学生の出席をいただいで、福山市老人大学第49期入学式が盛大に挙行できますこと 大変有難く嬉しく存じます。

今年度の本講座は、限られた条件の枠内で、出来るだけ多様な学習ニーズに応えるため、

- ・ 民謡は、普通科を廃止し、研究科2クラスに削減
- ・ 水墨画の普通科2クラスを1クラスに削減
- ・ 日本画と園芸科のそれぞれ普通科・研究科を統合し、総合科に名称換え
- ・ これに伴い教養・普通科も総合科に名称換え
- ・ 仮名1組を実用書道と改名し、仮名は2クラスを1クラスに削減
- ・ 絵手紙・研究科を新設
- ・ イキイキ体操・普通科2組を増設
- ・ パソコン1組初級科を削減し、スマホ・初級科5組と研究科2組を増設
- ・ 短期講座のスペイン語とデッサンを本講座に編入

以上9点の改編を行ない、昨年度と比べて教科数は、3増えて35、クラス数は変わらず九七です。クラス数は昨年度と同数とし、教科数を増やして多様化を図ったところです。

この本講座を受講する今年度の学生数は、昨年度より32減の2621、男女比は、男子883・33.7%・女子1738・66.3%。引き続き、女子学生の人数・割合が多くなっています。因みに、最高齢は、男子96・女子95。平均年齢は、男子75.6・女子74.2。合同平均年齢は74.7。昨年度より0.3歳向上しています。

なお、2教科以上受講の合計数438を加えた延べ学生数は、昨年度より7増の3059です。

老大学生の高齢化を受けて、一昨年度から大学運営の合言葉を「健康と安全が一番」とし、講座内容と行事の実施方法などを改めてきています。

また、老人大学の社会的役割を「健康長寿への貢献」とうたっています。

私は、今年2月の第48期修了式の式辞で、不老長寿は、古今東西の人間の願望であります。我が国は今や長寿大国を実現しました。

しかし、その主人公たる高齢者の多くは、老齢年金を受給し各種高齢者割引を活用しながら、老人と呼ばれることを忌み嫌い、老人であることを認めたくない気持ちを強く抱いています。

「少しでも若く ありたい、若く 見られたい」そうした価値観がテレビコマーシャルなどを席卷しています。老人大学も名称変更の圧力を受けています」と話しました。

今日、世間では、「老人・年寄り・老化・老齢・爺婆」の言葉を「高齢者・年長者・加齢・熟年・エイジング・シニア」と言い換えることが進んでいるようです。

しかし、私は、「誤りをミス・危険をリスク・事故をトラブル」と言い換えて、「責任や事態の深刻さを軽んずる」ことの危うさを心配します。

戦争の惨禍を経験、或いは、戦後の混乱の中で、生まれ育った私達世代です。

我が国は、戦後70年以上にわたって平和を維持し、焼け野原からの復興と経済の高度成長、公衆衛生と栄養事情の改善、産業公害の抑制、交通事故の削減、そして医療の進歩と国民皆保険のお陰で、健康志向を高めて、長寿社会を実現したのです。

私たちは、長寿は実現しましたが、不老・年老いないということは、テレビコマーシャルのよう

には簡単に実現できません。

老大学生は、60歳から96歳まで親子程の年の差がありますが、誰もが「10年前の若さ」は持ち得ていません。

それでも、各々が、健康に留意し、重大な事故を免れ、幸運にも、この年齢まで人生を歩んで来て、今ここに居ること、そして老人大学で学べること、を誇りに思い、自負することが出来る、そうした心情こそ望ましく尊いのだと考えます。

今年2月に古希を迎えたフォークシンガー「南こうせつ」は、最新図書「いつも歌があった」の書き出しで、ここへきて、心境が少し変わってきた。

先日、妻に「しわが増えたわね」と言われて、その言葉を嬉しく感じて、「ありがとう」と答えた。「しわは、これまで自分が生きてきた証・樹木の年輪のようなもの。しわのひとつひとつに僕の生きてきた時間が刻み込まれている。しわは、人生の勲章だ」と素直に思えた。と記しています。同感です。

老人としての自覚と誇りを持ちたいものだと思うのです。老人としての自覚と誇りを感じられる大学運営を推進したいとの思いを申し述べ、式辞といたします。

2019年（平成31年）4月5日
福山市老人大学 学長 高橋 和男